I GOT
SU
RP
W
転生したら
ゲイ向け
RPGの世界
だった件に
ついて。6

腹減った〜…
ねぇ〜…近くに食べ物屋さんとかないんすか〜…
俺腹減って死にそうですよ〜…
そうですね…まだ村らしきものは見当たりませんし…
ええ〜…？

もう少しの我慢だハギュヨーグ
勇者なら乗り越えられるだろ？
空腹と勇者は関係ねぇよ本当ガルグさんって脳筋バカ
仕方ない…俺の秘拳で満腹中枢を満たすツボを殴り突くか
殴り突くって何？ゼルノスさんはゼルノスさんで殴る事しか考えつかないんですねサイコパス診断したら100パー叩き出せますよ
せめて食材があればお作りすることも出来るのですが…
え？料理出来るの？ミカエラさん
はい…簡単なものなのですが…ガマゴールシェンティのスニャリタグースとか…
ごめん完成品が全然見えない何その謎過ぎる食べ物

リヴァイアさんはお腹減らないんですか？
私か？
私は食べずとも身を保つことが出来る
本来の私は水の神として据えられた存在なのでな…
あ、そっかこの人神だったなすっかり忘れてた
とにかくもうダメ…お腹空きすぎて歩けない…
サクッ
サクッ
サクッ
サクッ
…ん？
…何だ…？この腹が極限まで減っている状態で聞こえる美味しそうな咀嚼音は…！
幻聴か…!?それとも悪魔の仕業…!?
…やめてくれ!!これ以上腹の虫を刺激するようなことは…ッ!!
このままだと本当に倒れてしまう…ッ
頼む…お願いだッやめてくれ…ッ
やめろぉおお…ッ!!!
まだ…僕が幼かった頃…
何も知らなかった僕に…夢と希望を与えてくれた…
それがゲームだった

ゲームは教えてくれた…
君は無限の
自由を手に
しているんだ…
だから
勇気をもって
前に進んでいって
欲しい…
ゲームの中で
紡がれる物語は
僕にそう
語りかけてくれている
様な気がした…
あの時の
胸の高鳴り…
感動と笑顔を
与えてくれた
この
素晴らしい世界…
愛が生まれた日…
ゆずれない願い…
恋はスリル
ショック
サスペンス…
そして…
愛しさと
切なさと
心強さと…
おーい
大丈夫かー
変な走馬灯
見えてっぞー
TSUBASA
はッ!!!

…どうしました？
勇者様…
え!?
…あ…いや…!!
何でもないっす!!
天の声!!
テメェか!!
さっきから
美味しそうな
咀嚼音出してる奴は!!!
あれま
聞こえちゃって
ましたか

いやー
やっぱり
何度食べても
美味しいっすねー
うまい棒めんたい味
僕たちが住む
未来の世界でも
ちゃんと人気商品で
君臨しているのにも
納得です
しかも
うまい棒を
食べる
咀嚼音…ッ!!!
絶対美味しいやつ
それ…ッ!!!

…お腹
減ってるんですか？
そうだよ…ッ
見たら分かるだろ!!
なのにテメェは
いけしゃあしゃあと…ッ!!
へー
それは
可哀そうですねー
この回で
初めて読んでくださった
読者様も
いらっしゃる
かもしれませんし
ま
そんな事は
さておき
いつもの
前回までのあらすじ
やっときますかー
それでは
どうぞー
お前はそれでも
人の子か…ッ!!!

死んで当然よ!!あんな男!!
うわッ急になんだッ誰だよお前!!!
……じゃあ認めるんだね？主人公の萩洋一が同人販売用のゲイ向けRPGに転生させられたことを…
そうよ…全てはあの男が悪いのよ…ッあの変態が…ッ
何だこのサスペンス再現VTRみたいなノリ…さらっと変態言うな
あの男が…歩きスマホをしてたから…
だから…赤信号にも気づかず横断歩道に自ら飛び出てトラックにはねられて…ッいい気味だと思ったわ…あれで全てが終わると思ってた…ッ
だが…それだけでは済まなかったんだね…？
えぇそうよ！死んだと思ってたのにあの男が再び目を覚ますとあたりは真っ暗闇…ッ
俺この女知らないんだけど…どれだけ俺に怨恨抱いてんだよいい気味って…流石にひどいだろ
そこで聞こえた天の声の導きで…ッ
あの変態にしか聞こえない天の声の導きで転生することになったのよ!!!
おいおい変態強調しすぎだろこの女
そればかりかあの男は同人販売用のゲイ向けRPGに転生させられたのをいいことにゲームのキャラを使っていやらしいことばかり…ッ
もう我慢の限界だった…ッその時あたしは誓ったわ
挙句の果てにはその世界では勇者の証とされているネクタイピンをつけていたせいであの変態が勇者として称えられている…ッ
何年…何十年かかってもあの男を…ッ全てを壊していったあの変態を…ッ
必ずこの手で裁いてやるって!!!
だから何でだよ俺がお前に何したっつーの

…唯一の貴方の誤算はあの男を転生へと導いた天の声が未来人であったということ…

そして…その天才的な未来人がサルベージ出来るという魂を画期的なゲームを製作し、実験台として自らあの男を転生させたということ…

この二つの真実が動かぬ証拠になってしまった…そうだね？

えぇ…まさかあの男を導いた天の声に足元をすくわれるなんてね…

…え？まだあんのこの寸劇嘘でしょ

でもあたしは後悔してないわ！

だってあのゲームは一度魂をサルベージすると途中では抜き取れない…

今いるゲームの世界をクリア出来ないと次の転生先にいけないんだもの!!!

そう言って高らかに笑う彼女…

だがその瞳には…

一筋の涙が…

この殺人劇の本当の被害者は…

犯人である彼女そのものだったのかもしれない…

はいはいはい終わり終わり２ページも使って何やってんだこの茶番劇はよ

…あのさ
そろそろやめようぜ
この分かりにくい
前回までのあらすじ…

何言ってるんですか？
私は貴方の代わりに
重い腰を上げて
わざわざ
やってあげてるんですよ？

感謝しろ
感謝

よく言えたな
元はと言えば
お前がこの世界に
俺を転生

あーうっせぇ
うっせぇ
ほんとうっせぇ
耳障り

んだとコラァ!!!

とにかく…
お腹が減って
辛い気持ちも
分かりますが

ちゃんと
気を引き締めて
ください

このゲームの
中には…

…あぁ
分かってる…

このゲームの
世界には
もう一人…

天の声すらも
作った覚えがない
謎の敵が
紛れ込んでいる…

黒の存在

彼は…
ゲームの世界だけ
ではなく

現実世界にいる
この私にも
その姿を現してきた…

彼は
私にこう
言ったんです…

「俺はやがて
実体を持つ…」

「そうなれば…」

「この混沌とした
世界から…

ようやく
蘇ることが
出来る」…と

彼の脅威はもはやゲームの世界だけにとどまらなくなっています
何故こんな事をしているのか…
そもそも彼は一体何者なのか…
…それすらも未だ分かっていませんが…
…なぁ…天の声…
その事なんだが…
…はい…？何でしょう？
お前にはまだ目覚めていない力がある…
唯一この世界を脅かすものと対峙出来る未知の力…
勇者よ…その力を目覚めさせそして駆使しろ
決してその力に飲み込まれるな
……

…どうしたんですか？
…いや…
何でもない…
…今貴方が
置かれている状況を
作ったのは私…
責任は全て
私にあります
貴方が
気に病むことは
一つもない
私が
貴方を
守ります
例えどんな
事象が起きたとしても…
このゲームが
終わるまで
私は貴方を
裏切らない
絶対に見捨てない
私は…
貴方の味方で
ありつづけます

まぁ人が作ったキャラで下劣な行為をすることはご遠慮願いたいですが
そのゲームを作ったのは他でもないお前だけどな
お前も十分変態だって事だよバカが
何が言いたい？
でも…それなりに頼りにしてるわ
…ありがとな
天の声
…
…はい
そろそろ着くはずだ

…どこにですか？
リヴァイアさん
もしかして飯屋？
…いや…
私を含め
三大神の一つ…
タイタン…
そのタイタンが
眠るとされる
聖なる地…
…聖なる…地…
地を司る神の
住処…か
何とか
味方につけたい
所だな
えぇ…
水龍様の様に
上手く
ご加護を
受けられれば
いいのですが…
私も長らく
三大神とは
顔を合わせていない
今タイタンが眠っていると
される地も…
残念ながら
風のうわさによるもので
信憑性は低い
そしておそらく
タイタンも
私と同様力を封じられ
貶められている
可能性が高い…
私も…
必ず上手くいくとは
断言できぬ…
…それに…
…？
…なんすか？
リヴァイアさん…
人の顔チラチラ
見て…

…な…何すか？
ど…
どういうこと
ですか…？
タイタンと
会う前に…
いや…
他の神と
会う前に
約束を
して欲しいのだ…
言っただろう…
私が真の姿に戻るには…
お前の肉体も必要だと…
…約束…？
例え
どんなことが
あっても…
必ず…
…はい？
必ず
最後には
私を抱いて欲しい…
それはつまり…
他の神にとっても
お前は…ッ
…？

とにかく…ッ
約束してくれッ
必ず私を抱くとッ
それさえ
守ってくれれば…
私は耐えることが
出来る！
わ…
分かりましたよ…
約束します
本当だな!?
本当に私を
抱いてくれるな!?
…はい…
では
行くぞ
着いてこい
…何を
話してたんだ
いや…
俺にも
分からなくて…
どこか
神妙な面持ち
でしたね…
…とりあえず
着いていこうぜ

えー…ということで
いきなりなんですが
わたくし…
仲間と…
はぐれてしまいました…
し――――ん…
おい
聞こえるか
天の声!!!
応答しろ!!!
くそ…ッ
いつもの如くだが
こんな時に限って
答えやしねぇ…ッ
何が
必ず守るだよ
あいつ…ッ
あの後
すぐに巨大で狂暴な魔物に
襲われて…
無我夢中で逃げ回ってる
うちに
気が付けば俺だけ
迷子に…

確かに仲間が戦ってるのを尻目に逃げ出したのは俺だけど・・・ッ
俺だって危なかったんだ・・・ッ丸腰なんだからビビるだろうが普通・・・ッ
と・・・とにかく早くみんなと合流しないと・・・
こんな森の中・・・またあんな魔物に襲われたら・・・ッ
うぃー・・・・
やッやだ何!?何よ!?
すー
すー
すー
すー
すー
・・・
ひ・・・人・・・?(ガチムチ)

あ…
あのー…
…あぁ…？
…なんだ？
おめぇ…
いや…
こんな所で
横になってると
魔物に襲われ…
うぅっわッ
酒クサッ!!!
な…何なんだこの人…
何でこんな森の中で
酔っぱらって…
そしてまたしても
ガチムチ系…
ガタイのデカさは
今まで出会ったキャラで
ダントツ一位…ッ
しかも…なにこれ…
エルフっていうのか…？
この…見た目に反して
ふわふわなケモミミ…ッ
ヤリがいしか
感じねぇじゃ
ねぇか!!!
…ん…？
おめぇ…
ひょっとして
勇者か…？
…へ…？

でっかぁぁぁ!!!
デカい!!!
デ立つと余計
…その胸元についてるやつ…勇者の証だろ…?
え…ま…まぁそうなるみたいですけど…
へぇ…ついに現れたのか…伝説の勇者が…
あ…あの…貴方は…その…エルフ…さん?
…あ?俺か?
俺は…

ま…魔物…ッ
後ろッ
あぁ？
オオオオ
ったく…
鬱陶しいぜ…
消えろ!!!
い…一撃で…ッ
……ッ

だ…大丈夫ですか!?
…どうやら今の力を使いきっちまったらしいな…
…本当ならこんな力もっと沢山使えるんだが……
俺も本調子じゃねぇからなぁ…
何度やっても酒飲んでる時じゃねぇと調子出ねぇんだ…
つくづく運が悪いぜ…
そ…そうなんですか…
ずいぶん酔っぱらってるみたいだな…
しかしこのエルフ…体も大きいが…チンコも…
かなりデカそう…
…あ?何人の体じろじろ見てんだ
え?あ…いやそんな滅相もない…ッ

ところでおめぇ…
伝説の勇者様が
なんでこんな所で
うろちょろしてんだ
あ…
それは…その…
仲間とはぐれて
しまって…
それで…
あ…あ…
…あ？
…まだ
生きてやがったのか…
仲間まで
連れてきやがって…
…ったく…
つくづく運が
悪ぃな…

・・・ッ!!
・・・なんだこりゃ・・・
おいおい・・・何しようってんだぁ？こいつら・・・
ちょ・・・ッ余裕かましてる場合じゃないっすよ
早く逃げないと・・・ッ
待てよ・・・このエルフ・・・出会った時から物凄く酒臭かった・・・
ってことはもしかして・・・ッ

泥酔しきって・・・ッ
自分の置かれてる状況分かってないんじゃ・・・ッ
おいコラ離せ・・・
俺ぁもっと酒が飲みたい・・・
おぁ？

おいなにしやがんだおめぇらッ
しーッ静かにッこれ以上刺激しないで…ッ
…って…アレ？
そういえば…ここはゲイ向けRPGの世界…
俺としたことが…
何を血迷った事をしてるんだ…
この状況は俺にとってまさに好機…
これはいつもの…
エロイベント発生だろうがぁあぁあぁあ!!!
バカ野郎ッ
離せッ

さっきまで
焦ってて
気が付かなかったが…
やっぱりこの
エルフ…
チンコデケェ…ッ
おいおめぇらッ
話
聞いてんのか…ッ
おぐっ
ぬ
ぶっ
おっ
ぬぶっ
おっ
ぬぶっ
おっ
ぬぶっ
おっ
久々の
異種姦か…ッ!?
なんと…ッ
これは…ッ!!!

!!!
あっ
な…ッ
…何…ッ

なにしやがんだおめぇらッ
俺を誰だと思って…ッ
な…ッ
やめろッおめぇらッ
こんな事してただじゃ…ッ
あ…
あ…っ

魔物の巨根が・・・ッ!!!
ただでさえガタイの大きい男がさらに大きい魔物に巨根で無理矢理責められる・・・ッ!!!
なんという鬼畜・・・ッ!!!

どちゃっ
ばちゃっ
あおっ
あぁ♡
ぶぴっ
ぶぴっ
ぶぴっ

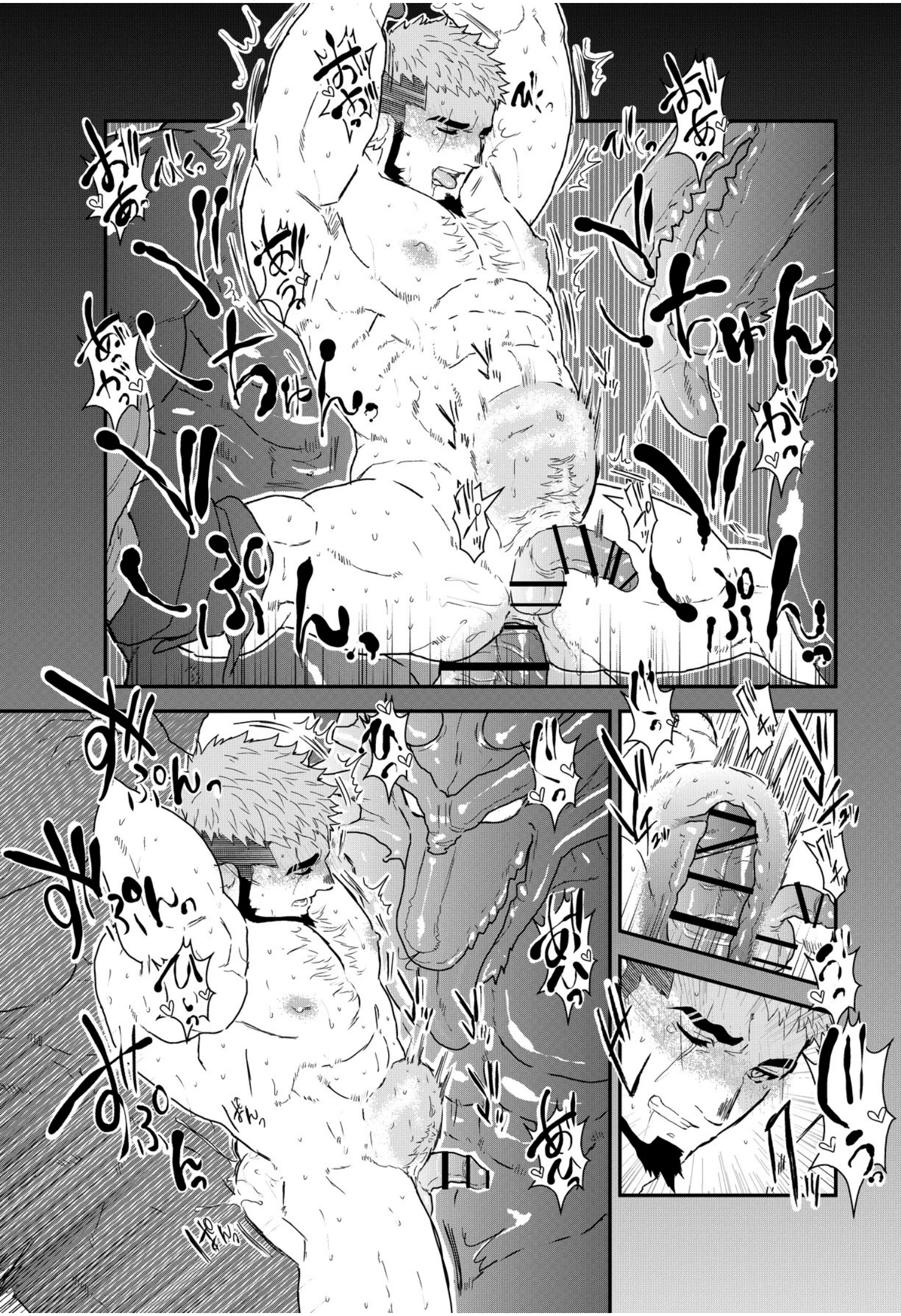
俺は勇者…
勇者である以上
あのガチムチ
エルフを
助けなければ…
例えゲームの
世界と言えど
この場面で
救わなければ
俺は勇者である
前に人として
疑われる
ことになる…
だからこそここで
問われるのは
俺という人間の
資質…
いかに俺が
勇者という器に
等しい人間か
試されている…
エルフさん!!!
待っててください!!!
今助けに…ッ
果敢であり
勇敢な男…ッ
そう…
俺は勇者…
悪を憎み
正義を貫く存在…ッ
ぶりっ
ぶりっ
ぶりっ

…もういいや…
勇者とか…そんなものどうでもいい…俺は所詮…
クズ野郎で
オッケーです☆
そもそもこんな俺得なドキツイエロシーン見せられて助けに行くなんて邪道なコマンド選択俺には出来ない…ッ
おごっ
もしそんな選択選ぼうとするやつがいたら…ッ
お天道様が許しても
この俺が許さねぇ!!!

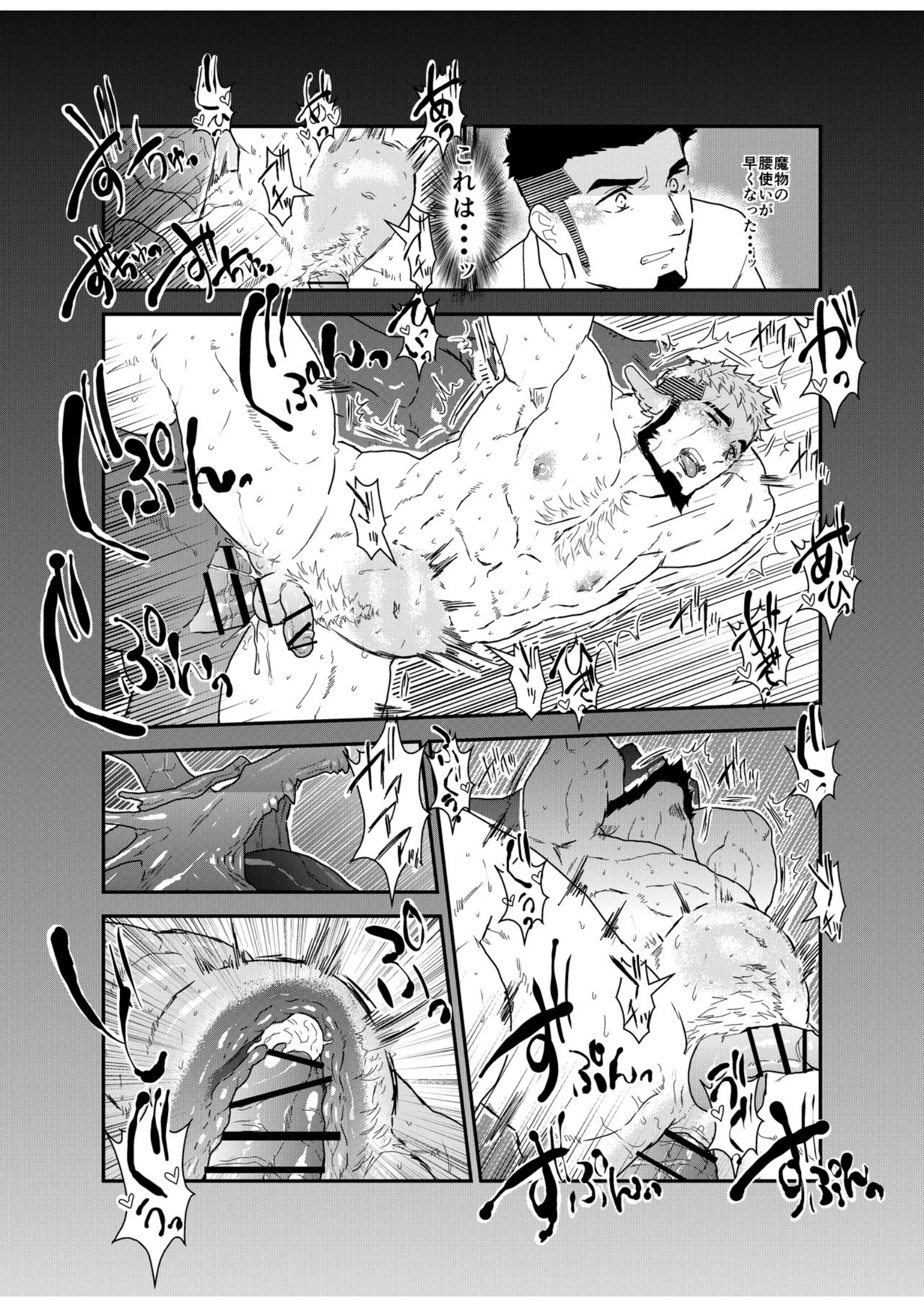
おっ
ビクビク
ビクビク
ビクビク

ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐちゅぐちゅぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ



ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ


魔物の腰使いが早くなった…ッ
これは…ッ

おぉ
あぁ…
あ…
ろぉ…

果てた…ッ
この魔物…ッ
留めをさしにきたか…ッ

…え…
…えッ？
ソロ…
ソロ…
ソロ…
精気の匂いに
つられて
他の魔物達も…!?
まさか…ッ
あ…あの…ッ
俺を食っても
そんな美味しくないと
思われ…ッ
ソロ…
!!!

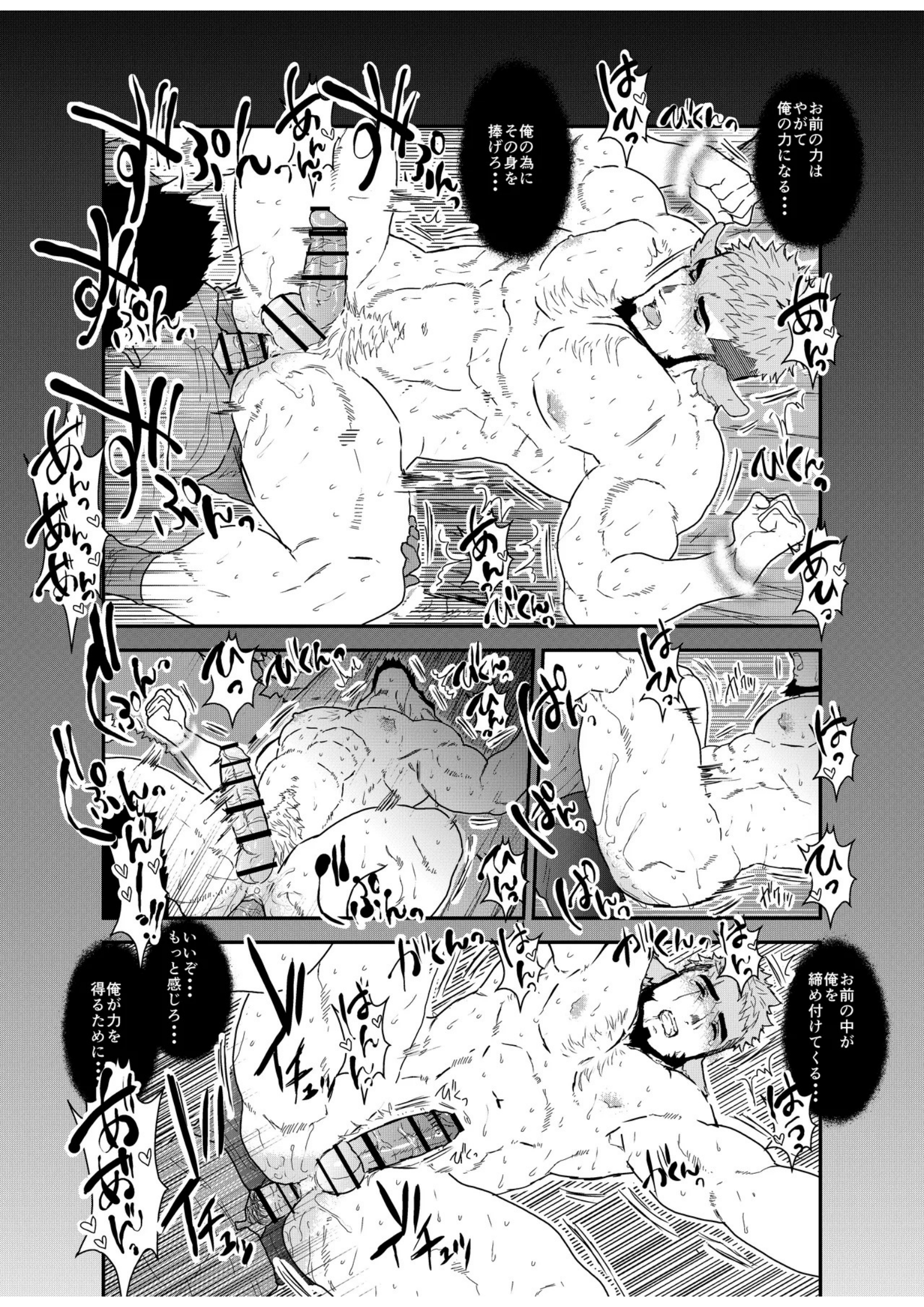
ヤバい…ッ
今度こそ犯される…ッ
おいッ
天の声ッ
答えろッ
おいッ
…ッ!!!
駄目だ…ッ
このままじゃ俺も…ッ
この魔物達に…ッ
誰か…ッ
誰か助け…ッ
…使え…
お前の力を…

なんだ…
これ…ッ
また目の前が…
…使え
ヒリッ
ヒリッ

ヒビ
ヒビ
ヒビ
ヒビ
…あ…ッ
く…ッ
勇者…
確か俺は…
魔物に襲われて…
…勇者…？

お前の力も…
俺が引き出してやる…
俺の力になるために…
…何を…ッ
おめぇ…ッ
やめろ…ッまさか…ッ
ぐぐぐ…
ズズズ…
やぁぁぁ…

や…ッ
やめ…ッ
俺は…ッ
黙れ
ぐぐっ
くんっ
ぼんっ
ぼんっ
あんっ
あっ
あっ
あっ
ぼんっ
ぼんっ
ぶるんっ
ぶるんっ
ぶるんっ
ぶるんっ
ぐぐっ
ぐぐっ
ぐぐ


お前の力はやがて俺の力になる…
俺の為にその身を捧げろ…
お前の中が俺を締め付けてくる…
いいぞ…もっと感じろ…
俺が力を得るために…

く…そ…ッ
ふざ…けんなッ
俺…は…ッ
無駄なあがきはやめろ…
素直に俺に身を委ねろ…
ぶるんっ
ぶるんっ
ぶるんっ

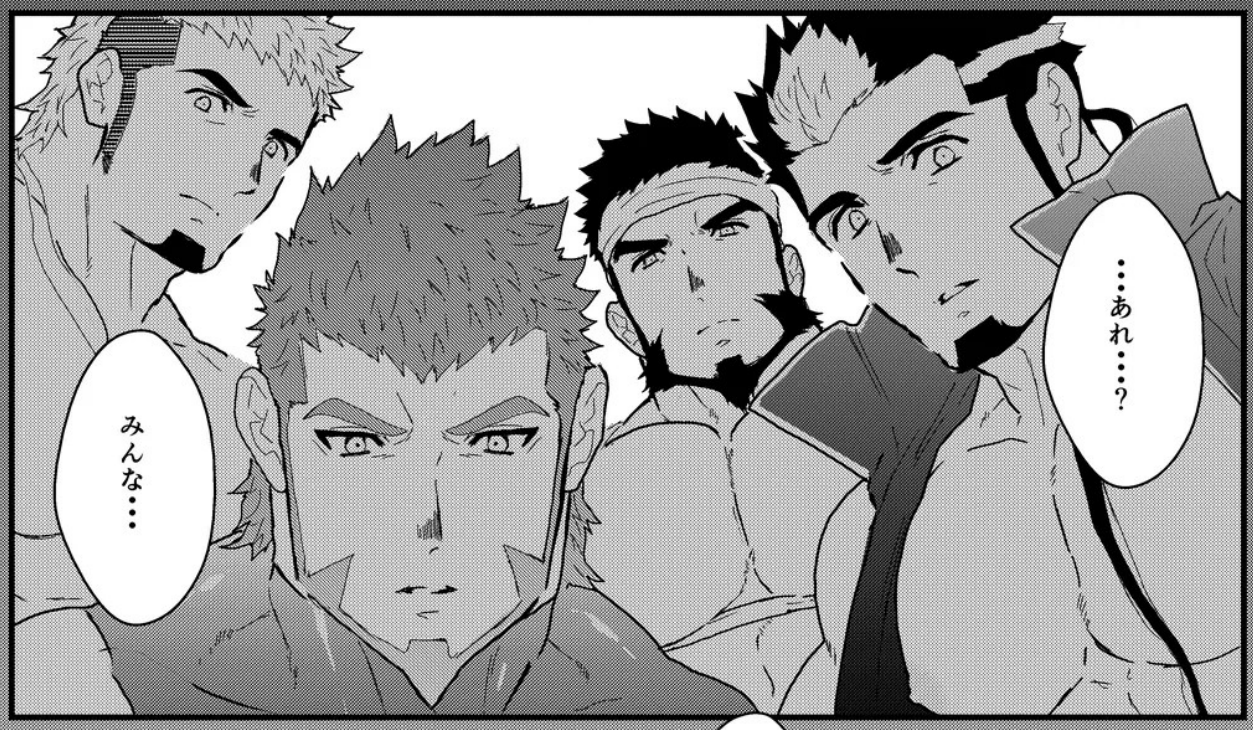
あ…♡
んくん♡
あんっ
俺が欲しいか…？
あっあっ
素直になってきたじゃねぇか…
あんっ
ぐぷんっ
ぐぷんっ
あんっ♡
ぐぷんっ
その口で言ってみろ…
あ。
んくん♡
ほ…し…ッ
あぁ。
ほ…し…いッ
ほーっ
ほーっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
欲しい…ッ

…いい返事だ…
俺でお前の中を…
あっ…
全部満たしてやる…
あぁ
あぁあぁこっっ
ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ
…出すぞ…
くださ…っ
ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ

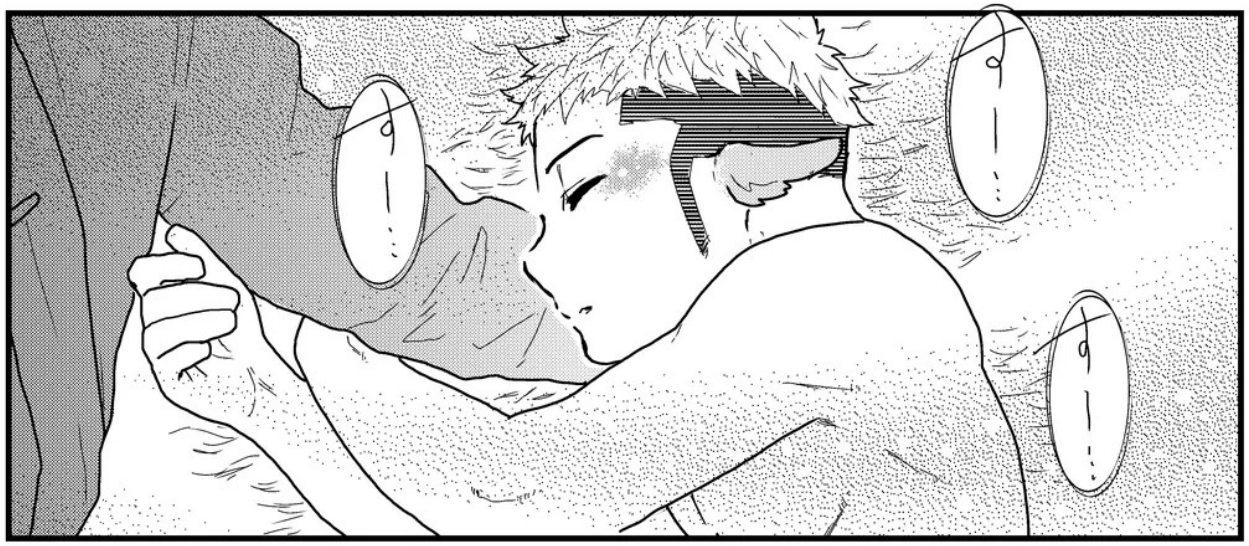
…お前が欲しがったものだ…
舐めとれ

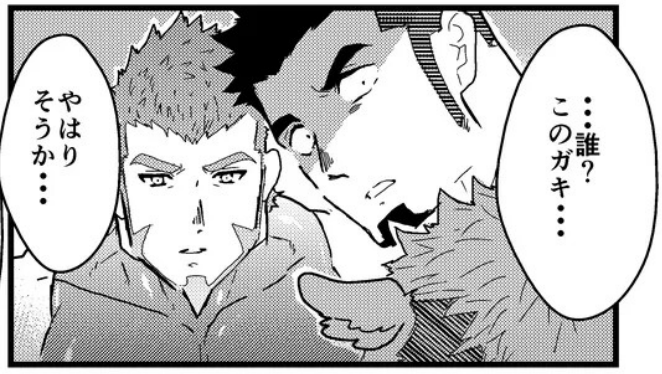
…美味いか？お前の欲しがってたものは……
…ふぁい…
おいひぃ…です…
これからは酒の代わりに俺のものを飲め…
いいな…？
ふぁい…
勇者様…
おい…勇者…
勇者よ…

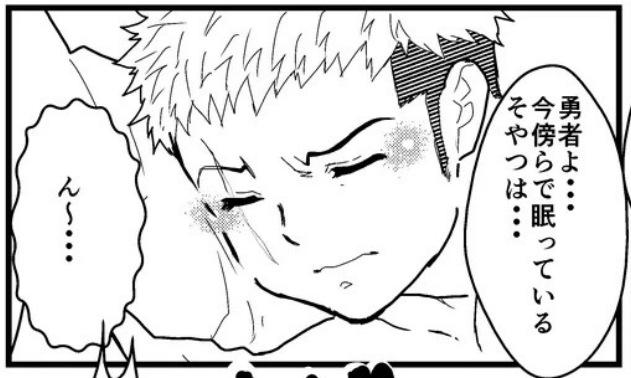
ハァ…

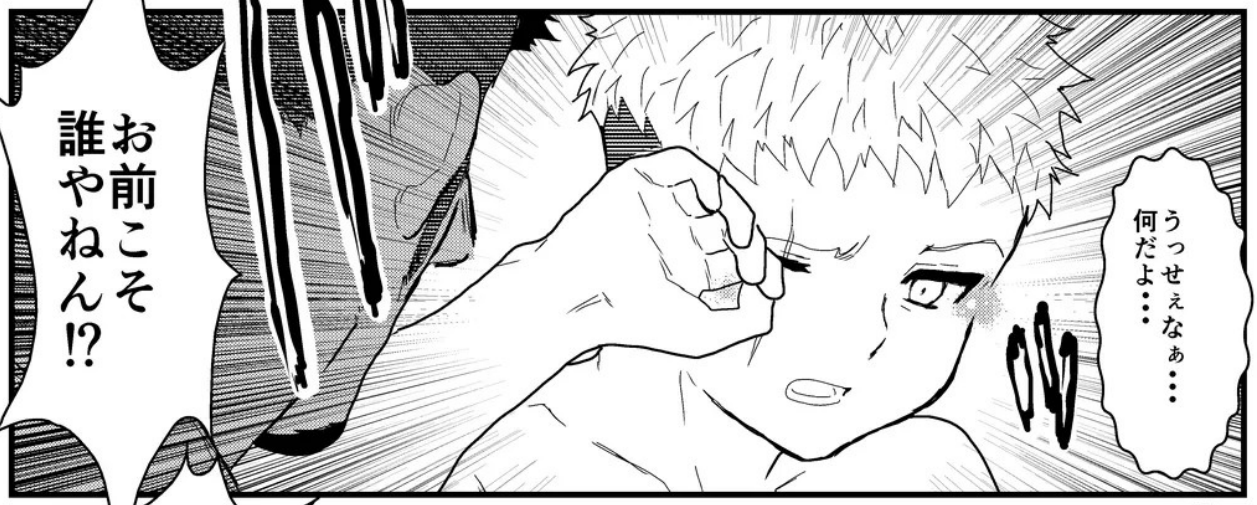

…あれ…？
みんな…

何やってるんだこんな所で…
心配したんですよ急にいなくなるから…
…俺…
そうだ…みんなとはぐれて迷子になって…
そしたら森で酔っぱらってる妙にガタイのデカいエルフに出会って…
エルフ…？

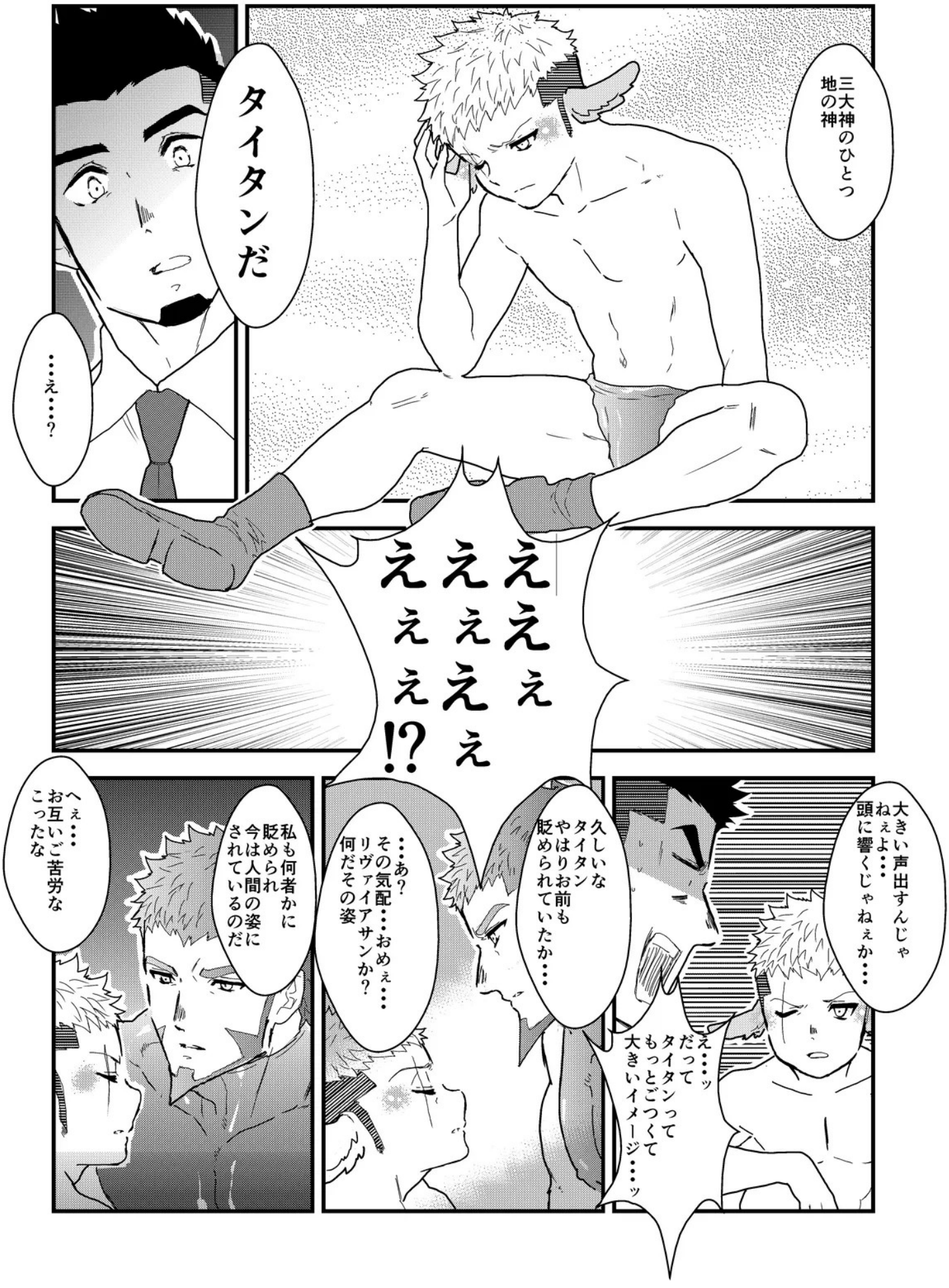

すー…
すー…


…誰？
このガキ…
やはり
そうか…


勇者よ…
今傍らで眠っている
そやつは…
ん～…


うっせぇなぁ…
何だよ…
お前こそ
誰やねん!?

…あ？
あぁ…
またこの姿に
戻っちまったのか…
つくづく運が悪ぃぜ…
は!?
落ち着け勇者…
そやつは
私達が会おうと
していた…


三大神のひとつ
地の神
タイタンだ
…え…？
ええぇ
えぇえぇぇ
えぇぇ!?
大きい声出すんじゃ
ねぇよ…
頭に響くじゃねぇか…
え…ッ
だって
タイタンって
もっとごつくて
大きいイメージ…ッ
久しいな
タイタン
やはりお前も
貶められていたか…
…あ？
その気配…おめぇ…
リヴァイアサンか？
何だその姿
私も何者かに
貶められ
今は人間の姿に
されているのだ
へぇ…
お互いご苦労な
こったな

…で？
分かったのかよ
俺達神を
貶めたやつが
誰なのか…
あぁ…
こやつらが言うには
「黒の存在」というものが
この世界を改変
してしまったらしく…
ちょっと待って
ちょっと待って!!!
話勝手に
進めないで!!!
…あ？
だって…
仮にそこのガキが
タイタンだったとして…
じゃ
俺が森の中で
出会った
エルフは…ッ
誰が
ガキで
エルフだ
あれも俺だよ
リヴァイアサンと
一緒で貶められた
姿だけどな
…どういうこと…ッ
俺は地の神
タイタンとして
この地で
人間の営みを
長くにわたって
見守ってきた
その際
人間達から
よく酒を
振舞われて
たんだ…
…それが理由かは
知らねぇが
貶められた今でも
一定量酒を飲むと
一時的に力を
回復出来る
ただし…
その土地土地の
地酒に限るがな…
地酒って…
地の神だからって
地酒…!?
「地」しか
被ってねぇ
じゃん…
仕方ねぇだろ
俺だってよく
分かんねぇんだから
お神酒上がらぬ
神はなし…ですか
まぁ
そういう事に
なるんだろうな
は？
どゆことよ？

古くから
お酒と神とは
深い関りが
あると聞きます
神にお酒を
供えることによって
人と神とが
一体となれるという…
えぇ…
何それ…
それでデカくなったり
縮んだりできるの？
名探偵コ○ンじゃん…
とにかく
ハギュヨーグが
タイタンを
見つけてくれたんだな
お手柄だ！
やるじゃ
ねぇか…
勇者
えぇ
お見事です！
いや…
迷子になってたら
偶然八合わせた
だけだけど
ところで
タイタン
話があるのだが…
…その話ってのは
俺達を貶めた
「黒の存在」って
奴の話か？
あぁ…
今私も真の姿に
戻るべく
こやつらと共に
旅に出ている…
私達を貶めた
「黒の存在」…
その姿を
見極める為に…
非常に危険な
存在なんです
魔物を闊歩させ
この世界すらも
変えようとしている…
俺達冒険者にとっちゃ
野放しには出来ねぇ
存在なんだ
そこで
タイタン
お前にも
力を貸して
欲しいのだが…
もし奴を
突き止めることが
出来れば
私達も真の姿に
戻れるやもしれぬ…
…だから…
…

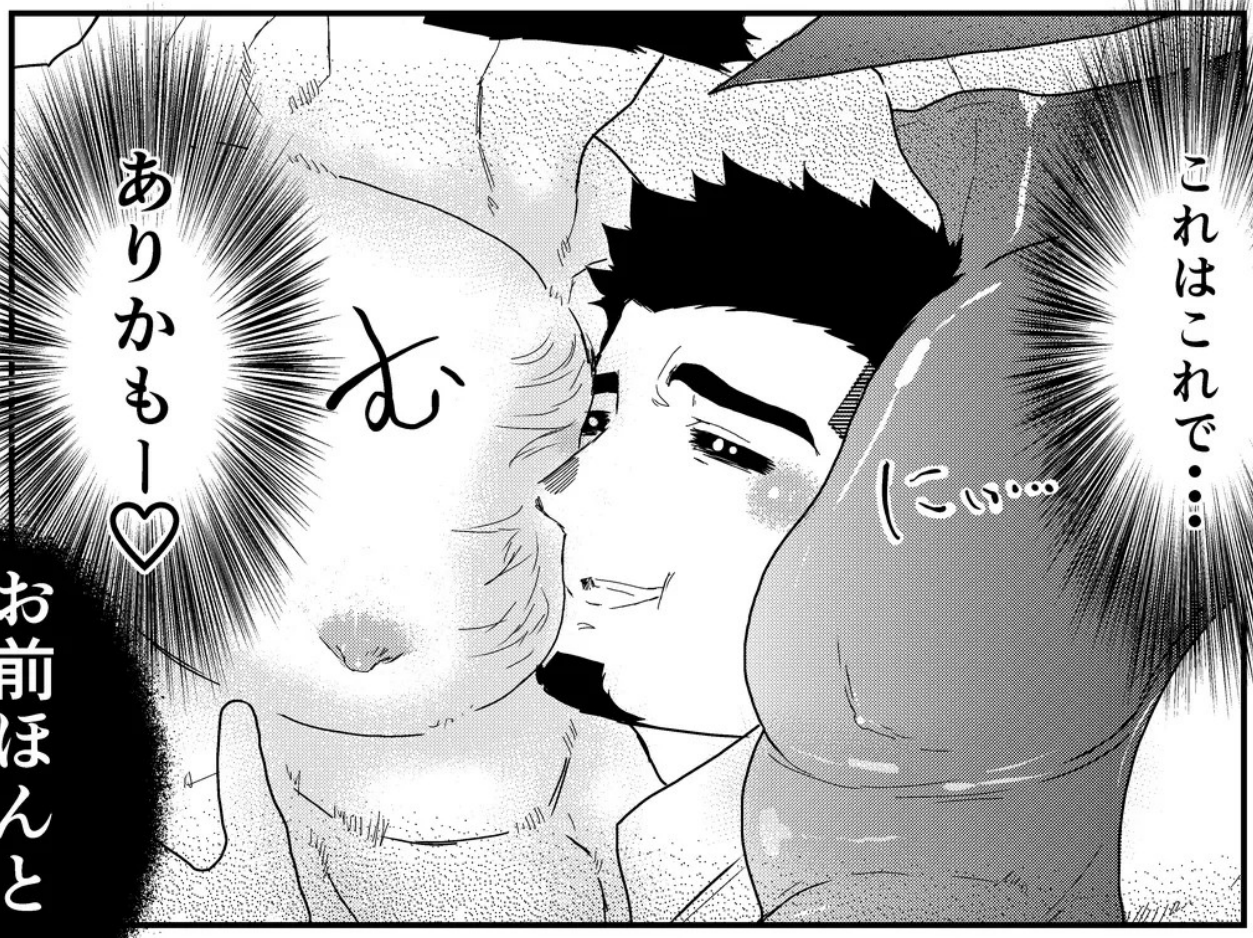
俺も酔っぱらってて記憶が薄いが…
この俺を襲ったあの魔物共…そいつらを動かしているのがその「黒の存在」っていうことか…
…はい…そうなるみたいです…
…分かった俺も力を貸そう
ありがとうございます!!!
ただし
見ての通り俺も本来の力は発揮できねぇ
おめぇらと旅をする事によって徐々に力を取り戻す事が出来ればいいが…
過度な期待はするな
…あぁ分かっている
それと勇者…
はい？
…おめぇの体…すげぇ良かったぜ…
…え？どういうことですか？
…覚えてないのか？
…はぁ…

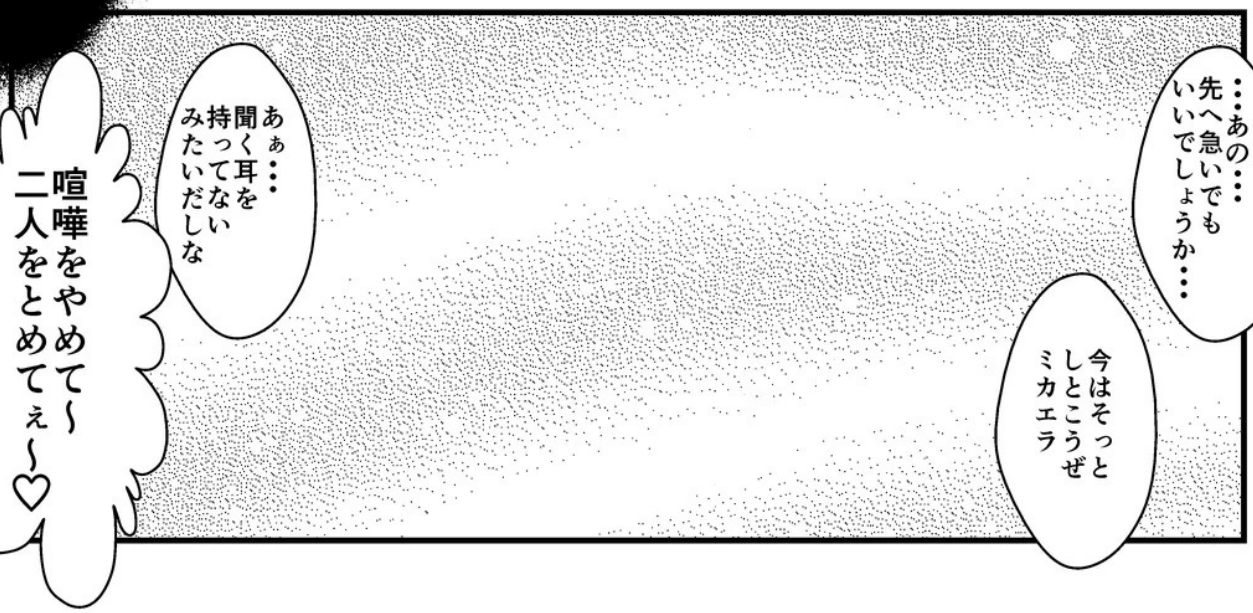
…あんなに激しく俺を抱いたじゃねぇか…
えッ？俺が？タイタンさんを？
…まぁいい
とにかくおめぇには頼みたい事がある
…何ですか…？
おめぇのおかげで少しだが本来の力を取り戻せた気がする…
なにより…おめぇとの交わりが忘れられねぇんだ…
おめぇが望むなら俺は大人の人間にもなる事が出来る…
…また俺をおめぇの好きなように弄んでくれねぇか…？
そ…それは…つまり…
あぁ…好きな時に俺の体を使っていい…
おめぇがやりたい時に…滅茶苦茶にしてくれ…
ボ…ソ…

何を話している…？
!!!
り…リヴァイアさ…ッ
おめぇには関係のねぇ話だ
そ…そうですリヴァイアさん！なんか…良いお酒ないのー？って聞かれて…それで…
…
分かっているな…？タイタン…この勇者は私の勇者でもある…
抜け駆けは決して許さんぞ…
ゴゴゴ
…あぁ？誰がおめぇのもんだっつったんだ…
この勇者は俺のもんだ…
おめぇこそ独り占め発言してんじゃねぇぞ…
あ…えっと…その…

なになにー？
修羅場ですか
これー？
天の声…ッ
お前また
必要ねぇ時だけ
現れやがって…ッ
モテる勇者は
違いますねー
神同士を嫉妬
させるなんて
正に罪な奴
やかましい!!!
四の五の言わずに
どうにかしろ
この状況!!!
どうせ
私が見てない間に
いやらしい事したんでしょ？
自分が蒔いた種じゃん
知らねぇよ
おい勇者
あの神たち
なんだか
険悪に見えるが…
えぇ…
どうかなされたので
しょうか…？
ハギュヨーグ
何かしたんじゃ
ねぇのか？
いや…ッ
俺は…ッ
別に…ッ
と…とにかく
タイタンさんも
味方について
くれたようですし…ッ
約束しろタイタン…
決して
私の知らぬ所で勇者に
手を出さぬと…
先へ
急いで…
に…
おめぇこそ約束しろ
俺の勇者に
勝手にイタズラ
すんじゃねぇってな…？
～～～…♡

くそ…ッ
面倒な事に
なっちまった…ッ
まさか
俺の取り合いに
なるなんて…ッ
でも…


これはこれで…
ありかもー♡
お前ほんと
最低な男だな


…あの…
先へ急いでも
いいでしょうか…
今はそっと
しとこうぜ
ミカエラ
あぁ…
聞く耳を
持ってない
みたいだしな
喧嘩をやめて～
二人をとめてぇ～♡

もう少しだ…
もう少しでお前と俺は同じになる…そうなれば…
あと少しだ…